月刊「健康と医療」

美容アンチエイジング医療・メディカルサプリメントの月刊ジャーナル

JHM
Journal of Health & Medicine
発行所／株式会社健康医療ジャーナル
〒104-0033 東京都中央区新川2-21-15-1007
電話03(6222)3121/FAX03(6222)3125
発行人／岡野英男
http://www.jaas-academy.com/

創刊20周年記念No.3

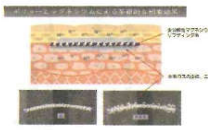
ＪＨＭインタビュー　牧野良彦ＭＤに聞く　（４面）

「マグネシウム水素スレッド」上陸

糸にコグ付き生分解Ｍｇ巻き付け、強いけん引、高い持続性に加え水素発生

非吸収糸から吸収糸、使うニードルも鈍針から カニューラタイプの鈍針に変わり、形状も突起状のコグやモルディングタイプの成型品に進化。さらには吸収糸の材質もPP、PDO、PCL、PLLAあるいは、スレッドそのものにメッシュを包み込む糸などと、この10数年でスレッドリフトはいわゆる「資材革命」をもたらしてきた。その発信源は韓国であることはいうまでもない。いまや世界のスレッドリフトの流行は、Made in Koreaがけん引しているといってもいい。こうしたなか日本に紹介される糸資材もまたその多くが韓国製で、ある意味、日本の美容クリニックのスレッドリフトの需要は、韓国でのスレッド開発とそのテクニックによるところが大きい。JAASアカデミーがいち早く始めた韓国そして日本での糸リフトライブ講習会は、その後、多くの輸入ティーラー会社からハンズオンセミナーとして開催されるようになったことから、新たにスレッドリフトを治療メニューに導入するクリニックも増え、採用するクリニックの裾野の広がりと比例するかたちで、需要はさらに拡大の一途をたどる。美容医療マーケットの拡大の要因の一つが糸リフト需要の増加を指摘する医師も多い。とはいえ、「廉価料金は輸入されるスレッドの単価に左右される」ことだろう。一部の輸入元が法外な単価で日本に流通させる一部の韓国の会社が製造会社と偽って日本のディーラーに販売するなどなど、韓国の糸製造、販売、供給ルートの実態を知らずに一部の日本の販社が美容クリニックに卸すために、高額な価格帯や製造実態の不明瞭な糸資材が流通してしまうケースが散見される。新しいスレッドになればなるほど、こうした問題を生じる。こうしたなかユニークな発想から開発された全く新しいスレッドマテリアルが韓国から日本に上陸した。開発、製造を担う会社LABnPEOPLEは独自のR&Dセンターを有し、独自の製造生産設備をもつ。そして日本の正規代理店アピール・インターナショナルに流通する。開発、製造、正規ルートと、一部で横行する不明瞭な糸資材の供給、販売経路ではないことはいうまでもない。

アピール・インターナショナルが上陸した糸は「Magnesium Hydrogen Lift（マグネシウムハイドロジェンリフト）」で、PCLまたはPDO材質の糸にコグのついた生分解マグネシウムが巻き付けられた美容医療スレッドで、今までにない強いけん引と、皮下での生分解過程で発生する水素によってフィラー効果が生まれるもの。



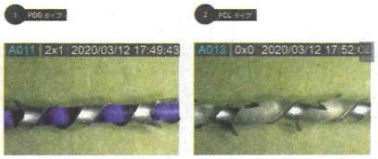
別名「マグネシウム水素スレッドリフト」ともいう。Lifting, Volumizing, Anti-Oxidant Reactionの3つの美容効果を発揮するといっていい。

同マテリアルの最大の特長は生分解Mgをつけたことだろう。

そもそも必須ミネラルであるマグネシウムが炎症はさまざまな疾病の引き金になるといわれ、Mg補充によって炎症緩和、抗酸化作用、活性酸素除去あるいは細胞代謝の活性化や恍惚などにも有効であることが明らかになっている。医療分野では整形外科領域すでに活用されており、人体内で100%分解される金属が発生しZOHとなって皮下組織に抗炎症、抗菌効果をもたらすというものだ。生体内での生化学変化は画像を参照いただきたい。

この糸のデビューを飾った今年5月の第109回日本美容外科学会（JSAS）での学術展示では、多くの参加医師らから注目を集め、話題をさらっており、その一人池田　欣生（JAAS理事長）は早速、「マグネシウム水素スレッドリフト」を導入して、実証実験をしている。ぜひ一度、池田MDのFacebookの公開動画をみていただきたい。紛れもなく水素発生の様子が映し出されている。

リフト＋皮下でのフィラー効果によるリジュビネーションのダブル効果



（3面につづく）

ひるがえって、糸による生体内のコラーゲン生成などを喧伝する糸供給会社があるが、細胞外マトリックスを構成する主要成分であるコラーゲンの創傷治癒（糸による皮下組織の損傷を回復させるために繊維芽細胞が活性化されその結果コラーゲン生成を促す）作用など、生化学的なメカニズムについて、臨床効果を確認するところは少ない。

けん引の物理的な立証はこうした検証を待つまでもないが、糸によるコラーゲン生成の生化学的な作用機序のみにとどまっているのが現状のようだ。

ある意味、この「マグネシウム水素スレッドリフト」は、まじめに検証を重ねながら市場に投入された数少ない糸マテリアルといえる。

同スレッドの持続性は6か月～8か月でMgの分解速度は0・01mm～0・005m／1週間だという。また糸1本でのMg含有量は9・7mgであることから水素が9・7ml発生するという（Mg1gで水素気泡は1㎖発生に準じた換算数値）。糸自体の強度は強いが、同時に柔軟性も兼ね備えるため埋入操作では決して難しくない。ちなみに、Mgの生体適合性はISO 10993で検証済みであることは言うに及ばない。

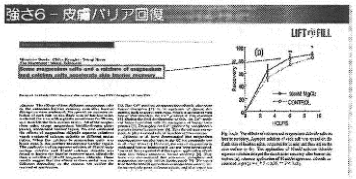
こうしたエビデンス（持続性、固定、けん引強度、活性酸素の除去、抗炎症作用、皮膚バリア回復など）は、基礎、臨床試験として一部論文掲載も含め、明らかにしている（画像参照）。

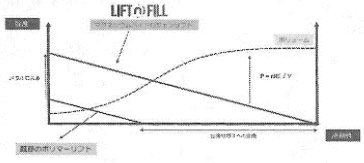
繰り返しになるが、糸による皮下組織でのコラーゲン生成を額面どおり謳だけの糸供給会社が少なくないなか、「マグネシウム水素スレッドリフト」は真面目に検証をするところといえそうだ。

持続性、固定、けん引強度、活性酸素の除去、抗炎症作用、皮膚バリア回復など基礎、臨床で検証する。

付け加えるなら、本糸に使用されるマグネシウム付加の技術は、開発製造元のLABnPEOPLE社から出願されており、14件のパテントにも及ぶ。

●本稿で掲載したマグネシウムハイドロジェンリフトにご興味、ご関心のある先生はJHM編集部email info@e-jhm.jpもしくはアピール・インターナショナル（埼玉県川口市・048－227－0772 info_ss@appeal-inter.com）にご連絡いただきたい。資料および症例写真などを提供する。





令和3年7月号
『月間 健康と医療』掲載
Magnesium Hydrogen Lift